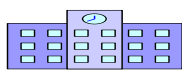


学校だより第1号 平成30年4月9日(月)

学校教育目標：自ら学び、心豊かでたくましい児童の育成



きざき



— 児童が目を輝かせて、
明日の授業を楽しみにする学校 —

TEL048-831-2281

URL <http://kizaki-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail kizaki-e@saitama-city.ed.jp



さいたま市立木崎小学校

児童数 847名

新年度のスタートにあたって

校長 豊島 登

桜の花があつという間に散ってしまうほど、今年の春はかけ足でやってきました。この時期は、いつもあわただしく過ごしていますが、今年は休日が入ったこともあり、久しぶりに春スキーを楽しんできました。シャーベットのような雪は足に重いのですが、鮮やかな青い空と少し霞がかった山々の壮大な景色に心が洗われるようでした。

さて、4月は、新たな出会いの季節です。人事異動により、教職員の顔ぶれも少し変わりました。新たな学年に進級し、新たな先生、新たな友達との出会いがありました。午後の入学式では、希望に満ち溢れる134名の新1年生を迎え、全校児童数847名(26学級)で、平成30年度の木崎小学校がスタートすることとなりました。学校教育目標である「自ら学び、心豊かでたくましい児童の育成」を目指し、「すすんで考える子」「れいぎ正しい子」「がんばる元気な子」を求める児童の姿として、今年度も、様々な教育活動を進めてまいります。

教えて之を化するは、化及び難きなり。

化して之を教うるは、教入り易きなり。 (佐藤一斎)

佐藤一斎は、江戸時代の儒学者です。随想集「言志四録」は、西郷隆盛の愛読書でもありました。“化する”というのは“感化する”ということです。字句どおりに読むと、「教えてから感化するの難しいが、感化してから教えるのは容易である」となります。私なりの思い込みも含めて解釈すると、「教え急いではいけない」ということではないかと考えます。躍起になって教えようとしても、人の考え方や態度、行動まで変化させるのはなかなか難しい。でも、教わる側がそうなりたいと欲している状態であれば、教えは乾いた砂が水を吸い込むようにすっと入る。教えようとする前に、学ぶ意欲や教えを受け入れる素直な心をもたせることが大事であるということなのだと考えます。

木崎小学校では、昨年度から、「アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善」に取り組んでいます。その研究が市の教育委員会から評価され、2年間の研究指定を受けることとなりました。この機会を生かして、子どもが自ら学びたいと思えるような授業をさらに追い求めてまいります。児童が目を輝かせて、明日の授業を楽しみにできるよう、教職員一丸となって指導や支援、環境整備に努めてまいります。どうぞ、今年度も、ご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

